

後期テニス部全道大活躍

開成校新聞

発行
開成中等新聞局
発行責任者 阿部
* * *
制作者
佐藤壮笑 佐藤瞭真
小笠原

「来年はもっと上へ」

2025年6月3日から6日までの四日間、帯広市で行われたテニスの高体連で、4年の佐藤悠太さん、財津櫻さんがシングルスでベスト8とベスト16、5年のロバートソンアンジェラさん、立花綾乃さんがダブルスでベスト16を受賞した。インタビュアーでは全道大会を通して各々が感じたことや今後の展望を語った。



▲サーブを打つ佐藤悠太さん

Q1 全道の結果を受けてどう感じていますか？
佐藤：素直に嬉しい。高校1年生でこのような結果を出せたことは今後の自信になる。応援して、支えてくださる人たちに感謝したい。
財津：ベスト8以上という目標は達成できない

かったが、ダブルスもシングルスも優勝者と戦ったことで自分が優勝するにはどんな力が足りないかを明確にできた。次に活かせる全道となった。
立花：ロバートソン…中学校で全道優勝、全国出場の経験を活かし、

今大会ではベスト8以上を目標としていた。しかし、ベスト16という結果になってしまい悔しい。来年はもっと上を目指したい。団体優勝校のペアには勝利できて嬉しかった。

心がけている。
立花：ロバートソン..「常に勝つ気持ち」と「ミスした後の修正」を心がけている。相手にリードされている時も、パートナーと戦術を話し合いながら、あきらめない気持ちを大切にしている。また、試合の中でミスしたときは、何が原因か、何を修正したら良いかを考えてプレーしている。

ど、より幅広く練習していきたい。また、夏が来るので体力をつけていきたい。
財津：全道では、勝つ学校やチームがどんな雰囲気なのか学んだ。これを部活に共有し、

秋に向けてチームとして強くなっていきたい。
立花：ロバートソン..秋の大会に向けて「チーム全体のレベル」の底上げをしていきたい。秋の大会では、勝つていくうえで、「団体としてのチーム力」が大切になる。まずは、基礎を固めるために球出しやラリーなどをし、練習試合などの実践練習を取り入れながら大会に向けてチーム力を高めたい。



▲立花さんとロバートソンさん

Q2 テニスをしている時に心がけていることはありますか？
佐藤：挑戦者の気持ちを忘れないようにすること。慢心している、熱意が足りなくなると調子が落ちる。気持ち奮い立たせてプレーができてくる時は、よく動けるので、その状態を維持したい。
財津：試合だと思って練習すること。誰かに見られていないことを意識して常に誰かと自分を比べてその人よりも上手くプレーすることを

五年の及川くるみさんが高校生外交官としてアメリカへ二週間派遣される「AIG 高校生外交官プログラム」の渡米プログラムに採用された。研修費は基本無料であり、プログラムは政治やアメリカの歴史に関するディスカッションを中心に行われる。東京で開催されるオリエンテーション合宿で日本文化の良さを再認識し、アメリカに現地の高校生などにプレゼンをする予定だ。及川さんはプログラムでは明確な目標を持って取り組むことが大切だとした上で、「このプログラムで得た経験を活かし、将来は国際関係学を学びたい」と語った。



▲レシーブをする財津櫻さん

